

男性 69 歳

【主訴】

脳震盪後の嗅覚障害

【具体的内容】

自宅で頭を下げて洗髪していた時、意識を失った。翌日病院で脳震盪を起こしていたと診断されたが、後遺症はないとされた。数週間経ってから、嗅覚が全くなくなり何を食べても美味しくないと感じるようになった。脳震盪を起こす少し前に離婚して寂しいと話していた。

【レメディ選択】(2025 年 2 月中旬)

Arn. 30C, Op. 30C, Hyper. 30C, Zinc-m. 12X, Puls. 200C

以上を水ポーション/随時/3 週間

【選択の根拠】

慢性化する前に対処できることがあるかもしれないと考え、講義中にとったノートを見直し、レメディを差し上げた。

Arn. = 脳震盪後の処置が適切ではなかった可能性あり。

講義で「全ての事故・怪我に」「くも膜下出血や脳震盪に」と習ったため選択。

Op. = 感情が顔に表れず、どこか虚ろな印象でぼんやりしている。

講義で「無感情・放心状態」と習ったため選択。

Hyper. = 嗅覚だけでなく、味覚も落ちている。脳震盪直後の記憶がない。

講義で「神経の問題全般」「記憶」と習ったため選択。

Zinc-m. = 脳震盪後の処置が適切ではなかった可能性あり。

慢性症状に以降しつつある急性と考え、鉱物のレメディを入れた。

講義で「脳神経に」「味覚障害に」と習ったため選択。

Puls. = 「孤独」だと何度も言う。感覚器官が麻痺している。

講義で「味覚障害には Zinc-m. と Puls.」「見捨てられた、誰も私をわかってくれない、一人でいられない」と習ったため選択。

【経過】

数日後、一瞬だが嗅覚がはっきり戻ったと驚いて電話をしてきた。「ホメオパシーは効いたことがない」と言っていたので 1 週間程度だけ試してもらおうと当初は考えていたが、本人の希望でさらにもう 2 週間（計 3 週間）同じ水ポーションを続けてもらった。その後、匂いと味が感じられる時間が増えたとのこと。目に生気が戻っているように見受けられた。

（注）この男性はフランス人です。フランスは西洋医学の医師によるクラシカルホメオパシーがほとんどで、この方も以前は医師からレメディを処方されていました。そのため、水ポーションのやり方や数種のレメディをコンビネーションして摂ることに、最初は抵抗がありました。

【考察】

嗅覚を失ってからそれほど時間が経過していなかったため、粒のレメディでもある程度の対処ができた（常時完全には戻っていない）。本人によると、最初にレメディを取った直後にかすかに匂いを感じたようだ。この経験が前向きな姿勢や生氣を取り戻すことに繋がった。離婚が脳震盪と嗅覚異常のイーチオロジーではないかと考え選択した Puls. が、抱え込んでいた孤独感や悲しみを軽減させたのではないかと考える。

以上